

# 7年度 学校評価 調査結果

I 評価項目の評価 4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:どちらかという達成できていない 1:ほとんど達成できていない

目標	項目	重点目標	教職員	保護者	児童	考察・次年度への課題
豊かな心の育成	1 一人ひとりを大切にされた教育の推進	①日々の学級経営の安定化を目指し、QUアンケート、生活アンケートを活用しながら、一人ひとりが安心して学校生活を送れるように努める。	3.8	3.5	3.6	-「QUアンケート」や「生活アンケート」、教師の積極的なかわりでの児童の実態把握を強化し、一人ひとりが安心して学校生活を送る環境づくりに努めた。また、スクールカウンセラーの積極的な活用により、困り感の共有、課題解決を図った。
		2 心の教育の展開				
	①人権意識を高めるため、ちくちく言葉を無くし、ふわふわ言葉が溢れていくよう努める。	3.7	3.5	3.8	-いじめと捉えられる事案については、すぐに児童の聞き取りを行い、指導を行うなど解決に向けて対応した。今後も児童一人ひとりをよく観察し、いじめの早期発見、早期対応に努めていく。	
		②読書の質の向上(活字本)と習慣化を図る。	3.6	2.8	2.9	-読書の質の向上を目指し、活字本を優先して借りるよう働きかけている。「隙間読書」の時間を明確に設定し、読書の質の向上と習慣化を更に図っていく。また、家庭での読書についても啓発を行う。
	3 道徳教育の充実	①道徳科授業を充実させ、子どもの心に響く授業づくりに努める。	3.4	3.4	3.8	-毎月の月目標に加え「挨拶」や「言葉づかい」を生活指導の重点事項とし、「ふわふわ言葉」を使うなど人権教育に基づいて学校全体で指導にあたっていく。また、道徳教育の充実を図り、豊かな心の育成を図る。
心の豊かさ	1 基礎的・基本的な内容の定着	①実態に応じた学習形態(共同学習)の工夫により、わかる授業と基礎学力の定着・向上を図る。	3.5	3.3	3.5	-全国学力・学習状況調査(6年生)、長崎県学力調査(5年生)では、全教科で全国平均、県平均を上回っていた。CRT学力検査では、ほぼ全ての学級、教科で全国平均を上回っている。一方で、全国平均に及ばない学級もあった。教師の指導力向上を喫緊の課題と捉え、組織的な取組として、児童と向き合う(教材研究・生徒指導等)時間の確保を通して、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに、個別最適な学び・協働的な学びの実現に向けた授業改善に、学校全体で取り組んでいく。
		②学級内の学習規律を整え、授業に集中して取り組む態度の育成に努める。	3.7	3.1	3.3	
	2 ながよ検定					
	①ながよ検定(漢字、計算)における、全員合格。	3.6	3.3	3.5	-9月のながよ検定では、目標の全員合格にわずかに届かなかったが、1月は全員合格できた。目標達成に向け、今後も計画的な取組を行っていく。	
健康安全教育の推進	1 安心安全な家庭・学校生活	①「早寝、早起き、朝ごはん」や毎日の健康観察等、家庭や学校生活での健康安全のための指導の充実を図る。	3.4	3.1	3.1	-大きな交通事故や怪我はなかったが、校舎内での安全歩行や登下校の交通安全指導について、繰り返し指導し、児童の安全確保を進めていく。 -年に3回、メディアコントロール週間を設定し、家庭と連携した取組(保護者アンケート)、児童の自主的な取組と啓発(メディア宣言の作成)を行ってきた。「コントロールする力」の意識をもっと高め、安全に利用していく児童の実践力を高めていく指導を目指していく。「早寝・早起き・朝ごはん」等の生活リズムの確立とともに、メディア使用については、保護者や地域の協力が不可欠な事項である。学校保健委員会や育愛会(PTA)と連携した取組の充実を目指す。
		2 安全なメディア利用の推進				
	①メディアコントロール力を高める取組と啓発。	3.5	2.9	3.0		
特別支援教育の充実	1 一人ひとりのニーズに応じた支援	①支援を要する子に関する情報を共有し、全職員で特別支援教育の推進に取り組む。	3.6	3.5	3.6	-全ての児童が、安心して学校生活を送り、楽しく学ぶことができるよう、児童に関する情報共有のための児童理解全体会やケース会議を定期的に行った。必要に応じて、保護者との面談を実施し、今後の対策について共通理解を図り、目標を共有しながら対応することができた。特支Coを中心に、関係職員が日頃から気付きを話し合い、様々なアプローチを試みながら支援を行っている。
		2 保護者・他機関との連携推進				
	①教育相談の積極的な実施やスクールカウンセラー等との連携により、児童理解と困り感の共有、課題解決を目指す。	3.5	3.5	3.6	-SC、SSWとの連携による教育相談体制をこれからも維持し、個々の課題解決の早期解決をめざしていく。	
国際化への対応	1 外国語活動の充実	①外国語科・外国語活動が充実している。	3.7	3.0	3.5	-本年度は、3年生以上が外国語専科による授業を行った。熱心に教材研究を行い、より専門的な指導の下で学習が展開された。週に1回ALTも来校し、3年生以上だけでなく、1・2年生でも年間10時間の外国語活動を行った。ネイティブの英語に触れながら楽しく学ぶことができた。今後は、ホームページや通信等で、保護者・地域への活動状況の発信を定期的・継続的にやっていく。
教育環境の整備	1 安心安全な教育環境づくり	①環境整備活動や安全点検への取組により、美しく安全な教育環境づくりに努める。	3.7	3.3	3.3	-「古くても美しい学校」を目指し、毎月の安全点検結果について、事務職員を中心に安全衛生推進委員会で確認し、緊急性を考慮しながら、学校で対応するもの、業者へ依頼するもの等、優先順位を付けながら対応してきた。「美しく安全な環境づくり」においては、今年度、学校環境衛生優良校として表彰を受けた。雑木の伐採や除草・溝汚泥整備作業には、育愛会や地域(七人会、せんだん会)の協力をいただいた。
		2 地域資源の活用による学習の充実				
	①地域の教育的資源を活用して、体験学習・生活科・総合的な学習を充実させる。	3.6	3.4	3.4	-地域の教育的資源(伝統文化継承・米づくり・みかん採り・校区内探索)を活用して、体験学習・生活科・総合的な学習を充実させることができた。	
教職員の資質向上	1 指導力の向上	①めあて・まとめを明示し、協同学習や教材の工夫改善により、分かる授業づくりに進める。	3.8	3.1	3.5	-校内研究では、個別最適な学び・協働的な学び(協同学習)を取り入れた授業研究、技能教科や学級経営に関する指導力向上のための研修、2本柱で研究を進めてきた。スキルをもったベテラン職員とICT活用力に長けている若手職員との交流を図る場を多く設けた。ただ、CRT学力調査やながよ検定、QUアンケートの結果から、職員個々の授業力・学級経営力を踏まえた指導力向上という課題が見えた。児童と向き合う時間を確保し、高め合う職能集団の形成を目指していく。
		2 GIGAスクール構想の推進				
	①タブレットやICT機器を活用して、授業における個別最適化や効率化を図る。	3.2	3.4	3.6	-タブレット活用について、昨年度より、AIDリルやオクリンクプラス等の活用が推進されている。今後、職員間で事例研修等を行い、授業の中での効果的な活用を推進すべく、研修時間の確保も目指していく。	